



あごねつと便り 2014年11月 第10号



平戸市民病院

河内峠のススキが育ち、どこか冬の到来を感じさせた2014年11月、日本各地から平戸市民病院に三名の研修医が降り立った。当初三人は慣れない環境に戸惑いを隠しきれなかったが、癒しの妖精・度島氏との出会いをきっかけに楽しい日々を送った。

病院内では外来、病棟、当直などの日常業務の他に、毎日の大切な健診エコー修行をこなし、予防の重要性を学んだ。病院外では訪問診療、訪問看護等を通し、住民の生活環境や実情を肌で感じることができた。それには看護師や介護師、ケアマネ、家族等、様々な立場からのサポートによって成り立っていることを知った。出前講座では地域の方々と近い距離で予防、啓蒙活動に参加することができた。

また、その地域と時代の変化に合わせて、新たに必要ことを探求し、チャレンジし続ける大切さを市民病院の歴史を通して学んだ。

最後に、たくさんの貴重な経験と、全ての方々と
の貴重な出会いに感謝申し上げます。

柴崎智子(横浜労災病院 研修医2年次)

玉那覇瑛太(北里大学病院 研修医2年次)

金子翔平(長崎大学病院 研修医1年次)

柿添病院

11月の一ヶ月間、柿添病院で私達2名が地域研修をさせていただきました。日々新鮮な経験の毎日、振り返るとあっという間の時間でした。

患者さんやその家族と医療スタッフの近いコミュニケーションは、地域密着型の医療を痛感しました。



その反面 で提供する医療は、都心に負けず劣らず、最先端のものであり、その現実にも驚きました。外来実習や手術、健診実習、訪問診療、訪問リハビリテーション、保健所研修といった様々な体験の中で、たくさんの医療スタッフや行政と連携し、地域医療が成り立っていることを知りました。

歴史とロマンの島、平戸で、充実の研修をさせていただき、本当にありがとうございました。

柿添圭成(九州中央病院 研修医2年次)

石井絢(九州医療センター 研修医2年次)

青洲会病院

青洲会病院の研修では、外来・病棟診療に加え、栄養科や薬剤科など他部署の仕事に参加したり、訪問看護や訪問リハビリテーションといった在宅の活動を見学したりと、普段の研修では経験できないことを体験させていただきました。

平戸を伺うまでは「なぜ皆ひとつの場所にまとまって暮らさないのか。病院から離れて暮らすメリットなどあるのだろうか」といった疑問がありました。

しかし、漁師として復帰するために在宅でリハビリを頑張る方や、シニアカーを利用して牛舎へ仕事に向かう方の姿を見るにつれ、彼らの生活の中心は医療ではなく各々の生活そのものであり、医療が彼らの手助けをしているに過ぎないことを実感し、彼らの背中をいかに負担なく、そっと押していくか考えて、尽力するコメディカルの姿を見て、大変感銘を覚えました。

一ヶ月と短い期間ではありましたが、医師として、今後働く上で大事なことを平戸では多く教えて頂いたように思います。ありがとうございました。

服部正幸(横浜労災病院 研修医2年次)

生月病院

2014年11月の一ヶ月間、生月病院で研修させていただきました。研修初日、佐々ICから険しい山道を通る時、いったいどんなところで研修が始まるのだろうと不安もありましたが、山を越えると目前には絶景が広がり、生月病院まで辿り着くと、海と山々、夕日が美しく、とても感動したことを覚えています。

この1ヶ月は、外来、健診、訪問診療などをさせて頂きました。外来では、住民ひとりひとりの生活環境にあわせた医療を提供することの大切さ、難しさを実感しました。また、プライマリケアにおいて、病気を予防する重要性を考える良い機会となりました。

最後に先生方をはじめ、医療スタッフの方々、地域住民の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

真野洋佑(姫路聖マリア病院 研修医2年次)

平成26年11月30日

発行: 長崎県北地域医療教育コンソーシアム

<http://hekichi-byoinsaisei.net/agonet/>